

跣歩を積むが如き伸展

通信と制御の技術集団

(荀子)に「跣歩せむを積まざれば以って千里に至るなし」とある。片方の足を前に踏み出すのを「跣」といい、道を行くが如しだ。地味でさらにもう片方を踏み出すことを「歩」という。千里の道みちを踏破するには、どれほどいかにの跣歩を重ねるのか途方もないが、それは事業の道

にも似ている。様々な人とあつつ信頼を紡ぎながら千里の道を行くが如しだ。地味ではあっても骨太の経営を貫く企業ほど、跣歩は力強い。

日本計装技研(株)代表取締役社長・木村治寛氏は、通信技術と制御技術を通じ、地球環境の保全に貢献しているプロフェッショナル企業。ビル設備の空調自動制御・計装・電気工事を主軸として、省エネルギー提案型事業にも注力し、トータルソリューションの提供に余念がない。昭和61年の設立以来、誠実で堅実な社風を一貫しながら、社員一人ひとりも自らの技術の研鑽に努めてきた精鋭集団だ。まさに一歩一歩、信頼の実績を積んで取引先の評価を高めてきたと言えよう。同社の技術陣は、国内空調制御業界のトップクラス企業で実務経験を備えた俊秀揃いであり、設計から現場施工、調整、保守まで一貫した体制で臨んでいる。技術屋ならではのひたむきな探究心と、飽くことのないチャレンジ精神もその特色。自動制御、計装図作成等のCADシステムも完備しており、常に新しい時代が求める高い技術の対応も申し分ない。跣歩を積むが如く、丹念に誠実に前向きな姿勢で成長を続けている。